

2022年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

高平理智が初ポールポジション、決勝では岡田陽大が3位チェッカー
ナショナルクラスでアドバンス生が表彰台を独占する活躍を見せた!

5月14日(土)公式予選 8:45~9:05 ◎天候・路面: Cloudy/Wet

#44高平理智 予選1位 2'30.659 #21岡田陽大 予選5位 2'31.661
#12豊田哲慎 予選9位 2'33.775 #7松岡絢音 予選10位 2'33.978

鈴鹿選手権サンデーロードレース第3戦が今季初のフルコースにて開催され、4名のアドバンス生がJ-GP3クラスに出場した。2days開催の今回、J-GP3クラスの予選・決勝ともに行われる14日(土)は、前日から当日の朝にかけて降った雨のため、予選開始時の路面はウェット。その後、少しずつ路面が乾いていくという難しいコンディションでの走行となった。

その中で、ウェットコンディションが得意だという高平理智が予選序盤から2分33秒台を計測、3周目から続けてファステストラップを刻む。その高平を追いかけるように走行していた岡田陽大も4周目でセカンドタイムを刻み、アドバンス生2名が予選を引っ張っていく展開に。豊田哲慎と松岡絢音は、今回が初めてのフルコースでのレース。豊田は早めにコースインし、少しずつタイムを削っていった。前日の特別スポーツ走行で転倒のあった松岡はスペアマシンでの走行となったため、マシンの感触を確かめながらの走行、慎重にタイムを更新していく。

徐々に路面が乾き始め迎えた残り3分、タイムアタックが激しくなる中、アドバンス生4名も更にタイムを更新。その結果、高平が予選1位で初ポールポジションを獲得、岡田は5位、豊田は9位、松岡は10位の順位となった。

5月14日(土)決勝レース(フルコース10周) ◎天候・路面: Fine/Dry

#21岡田陽大 総合3位/ナショナル1位/NSFチャレンジ2位
#44高平理智 総合5位/ナショナル2位/NSFチャレンジ3位
#7松岡絢音 総合7位/ナショナル3位/NSFチャレンジ4位
#12豊田哲慎 総合9位/ナショナル5位/NSFチャレンジ6位

予選時とは打って変わって爽やかな青空の下、14時45分より決勝レースが行われた。風が強く吹き、ホームストレート、西ストレートでは追い風となっていた。このクラスにとって風は大きく影響するため、普段のドライコンディションとは違う調整が必要となる。また予選がウェットであったためマシン調整も難しい。それらの対応力が問われるレースとなった。

高平は好スタートを決めホールショットを奪う。予選5番手の岡田もスタートを成功させ、トップグループ後方に加わった。松岡は序盤コースアウトしてしまい、一時11番手まで順位を下げたものの、その後落ち着いて少しずつ順位を回復していった。豊田はスタート後9番手争いを演じ、3周目で2つポジションを落としていたがその後順位を回復、更にブッシュする。

レース中盤、トップが単独になると、高平らは激しい2番手争いへ。コーナー毎に順位が入れ替わるレースが続いた。その後レース終盤、徐々にポジションを上げていた岡田が、最終ラップまで高平ら合計4台で総合3位とナショナルクラス優勝を巡って激しいバトルを展開。その結果、岡田が高平らを抑えきり、3位争いを制すると同時に、ナショナルクラス優勝を飾った。高平が5位(クラス2位)、松岡は7位(クラス3位)、豊田が9位(クラス5位)となり、Team HRSがナショナルクラス表彰台を独占する活躍を見せ、大会は終了した。



2022年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

**ナショナルJ-GP3クラス: 予選5位/決勝総合3位/ナショナル1位/
NSFチャレンジ2位**

岡田陽大(おかだ ひなた) 14歳

『ウェット走行が得意なのですが、金曜日の特別スポーツ走行は完全なウェット走行で自分の悪いところを発見することが出来ました。それを予選で改善しようと思っていたのですが、ハーフウェットに対応しきれず完全には改善できませんでした。その改善点を持ち込んで迎えた決勝だったのですが、いろんな人とレースが出来て、更に自分の遅いところや追加の改善点を見つけることが出来て、内容の濃いレースだったと思います。いきなりドライコンディションに変わって、序盤では対応しきれなかったのですが、みんなに引っ張ってもらって徐々に自分のペースを取り戻し、後半には前に出ることが出来ました。ラストラップではグループのトップに立つことが出来たので、今思えばレース始めの方からもっと前に出ることができたのかなと思います。グループでのバトルでは、もっとトップに食いつきたかったです』

**ナショナルJ-GP3クラス: 予選1位/決勝総合5位/ナショナル2位/
NSFチャレンジ3位**

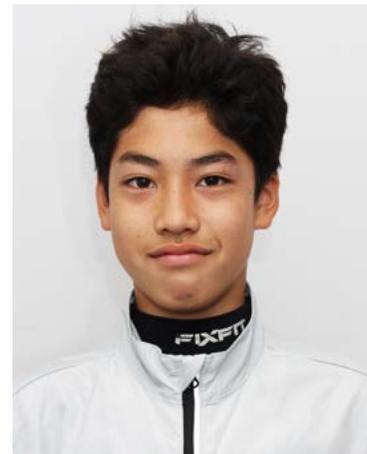
高平理智(たかひら りいち) 13歳

『今回、予選はウェット、決勝はドライというコンディションの違いには対応が出来ていたと思います。予選は自分が好きなウェットコンディションであることと、予選が進むにつれて路面が乾いてきたので、タイムを出すことが出来ました。その結果ポールポジションを取ることが出来たのはとても嬉しかったです。決勝では、スタートがうまく決まってホールショットを決めることが出来ました。でもその後はタイムが上がらず他のライダーに抜かれてしまい、3周目で更にホームストレートでスリップストリームを使って前のライダーを抜こうとしたら1コーナーでラインを外してしまい、そこでまたポジションを落としてしまいました。その後は集団でのレースが続きましたが、集団のトップにあまり出ることが出来なかったです。次戦では集団でもっとトップに立てるようにしたいと思います』

**ナショナルJ-GP3クラス: 予選10位/決勝総合7位/ナショナル3位/NSF
チャレンジ4位**

松岡絢音(まつおか じゅのん) 15歳

『金曜の特別スポーツ走行で転倒してしまい予選は予備のバイクで走ることになりました。バイクの感触は良かったのですが、ハーフウェットの状態ではタイムが上がらず、結果は10番手でした。決勝ではスタートがうまく決まらず、更に1周目の130Rで追い風とスリップストリームが効き止まりきれずコースアウトしてしまい、ポジションを落としてしまったので、焦りがでてしまいました。でもそこからは落ち着いて少しずつポジションを上げることが出来、その後はずっと7番手争いをしていたのですが、自分が7番手をキープすることが出来たのは、相手の走りをしっかり見極めて抜かされても抜き返すことが出来たからだと思います。最終的に7番手というのはあまり良くない結果でしたが、しっかり考えながら走ることが出来たのは良かったと思っています。今回は単独走行ではなかなかタイムが出せなかったのですが、これからは単独でも20秒台のタイムがだせるようにしていきたいです』



2022年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

ナショナルJ-GP3クラス: 予選9位/決勝総合9位/ナショナル5位/NSF
チャレンジ6位

豊田哲慎(とよだてっしん) 15歳

『ウェット路面に対しては苦手意識がありました。そのため金曜の雨の中行われた特別スポーツ走行では最初、他のアドバンス生よりタイムがでなかったのですが、走り込むうちに徐々にタイム差が縮まり恐怖心も薄れてきたように思います。今日の予選は最初、ペースは良くなかったのですが終盤で速い人に抜かれ、その人を追うことでタイム更新することが出来ました。決勝はスタート時、クラッチ操作を意識しすぎて若干出遅れ、更に後方から他ライダーにヘアピンで抜かれてしまい、抜き返すのに手こずってしまい、ナショナルの3位争いと離れてしまいました。追いつけるチャンスはあったのに追いつけなかったことを反省しています。自分の弱みはコーナー進入時の突っ込み、コーナーでのブレーキングが弱いことなので、次戦に向けてしっかり改善していきたいです』



岡田忠之 Principal

『今回、ナショナルクラスでワン・ツー・スリーを獲得することが出来ました。しかし4名ともタイムは目標には届きませんでした。岡田は、感覚で乗るタイプで波があり条件に左右される傾向にあります。このクラスは風の影響を受けやすく、スリップストリームの影響もあり、路面温度の状況が変化することで更に影響があります。感覚だけではなく、ブレーキングポイント、コーナリング中のエンジンの回転数、それらすべてを自分で確立した上でラップタイムを更新させたいと考えています。高平も感覚で乗るタイプです。人に付いていくことは出来るのですが、単独走行でのアベレージラップタイムが安定しない状態です。しかし今日、予選では初めて単独走行で淡々とベストを更新できていました。やればできるのだと思います。今は失敗から学んでもらうようにしているところです。松岡のラップタイムは岡田、高平よりコンマ3秒から5秒くらい遅れていました。決勝で大きく離されてしまったのは1周目の130Rでオーバーランしてしまったことが原因なので、それがなければもう少し前でゴールできていたのかと思います。緊張しやすいタイプなので自分のことを追い込んでしまい、肝心なところでのミスが多い。少しずつメンタル面を強化していきたいと考えています。豊田は雨が非常に苦手で、心理的な恐怖心を取り切れていない状態でした。乗り方の影響がすごくでているので、予選ではマシンでアジャストしたところ、少しずつ雨に対しての抵抗感がなくなり、タイムが上がりました。決勝ではタイムが後半に向けて徐々に上がってきていたので少しずつレースの攻略の仕方が解ってきたのかなと感じています。今後、もっと高いスキルを求めているいろいろなトレーニングをする予定です。全員が諦めずにステップを1段1段登って、鈴鹿のフルコースを2分21秒、20秒くらいで走れるようなライダーになってほしいと思います』

